

【開会の挨拶】

折 橋 伸 哉

東北学院大学経営学科長・教授

皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、2017年度東北学院大学経営研究所公開シンポジウムを開催させていただきます。

私は、東北学院大学経営学部経営学科長を務めております折橋と申します。本来ならば学部長の高橋があいさつを申し上げるべきところですが、同じ時間帯に社会人向けの大学院の授業を担当しているものですから、私、折橋が、僭越ながら代わってあいさつを申し上げます。

本日は、遠方および仙台市内より、次世代の自動車産業についての造詣の深い3名の講師の先生方をお招きさせていただきました。ご報告順に、広島大学の岩城先生、東北大学の鈴木先生、そして、以前、私どもの同僚でいらっしゃいました九州大学の目代先生です。お忙しい中お越しいただき、また、ご報告を準備いただきまして、大変ありがたく、心より御礼申し上げます。

本日のシンポジウムでは、人口減少局面に入っておりますわが国において、その最重要産業である自動車産業の将来について考えてまいります。本題に入る前に、経営研究所について簡単に紹介させていただきたいと思えます。

本経営研究所は、2009年に東北学院大学経済学部から経済学部経営学科が独立して経営学部になるのに伴いまして、それまで経済学部の付置研究所であった経理研究所を経営研究所へと発展的に改組いたしました。それ以降は、経理研究所の頃から続けてまいりました会計学関係の研究会に加えまして、三つの研究領域について重点的に研究していこうということになりました。そのうちの 하나가、本日のこのシンポジウムでもあるわけですが、自動車産業をはじめとする地域産業振興についての研究でございます。2008年から『東北地方と自動車産業』と題しまして6年にわたって継続して開催させていただき、2013年に同表題の著書を上梓させていただきました。手前みそながら、他地域との比較の視点も入れることができまして、幅広い読者にとって有益な図書をまとめることができたと自負いたしております。

二つ目は、観光産業に重点を置いた「おもてなしの経営学」というテーマであり、こちらは、旅館やホテルのおかみさんや地元観光協会、または鉄道会社の関係者をお招きしまして、経営上のさまざまな問題について研究を深めております。

三つ目は、起業家シンポジウムを、最近2、3年ですけれども毎年開催しておりまして、将来独立、起業を目指す学生諸君の啓発にも力を入れつつあります。しかも、単に研究のみにとどまらず、これらのテーマについてはそれぞれ授業を設けて展開しております。自動車産業関連につきましては、ケーススタディーとか、経営現場からさまざまな講師をお招きして学生に講話を聞かせるといった授業を展開しておりますし、おもてなしのほうも、旅館のおかみさんたちに実際

に大学までお運びいただきまして、おもてなしの精神、それから、それを巡るさまざまな経営上の問題について講話をいただいております。

このように、研究と教育両面を併せてやっているのが私どもの取り組みの特徴であると思います。本日は、自動車産業の将来について幅広く議論を展開し、多くの知見を得ることができることを期待いたしております。

以上、簡単ではございますけれども、経営研究所の紹介等も兼ねまして開会のあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。